



# 錦城高校新聞

題字 井口 文章  
再刊 第281号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2018

みんなでつくる  
錦城高校新聞

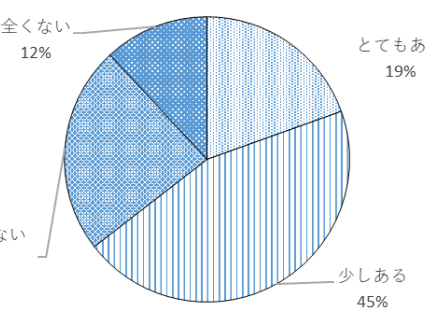
一面：錦城の1年間を担う新生徒会誕生  
新聞委員会三輪田セミナーに参加  
二面：ペットの部屋編集スペースに2年安比に向けて準備進む

# 新生徒会、見えてきた難題の数々

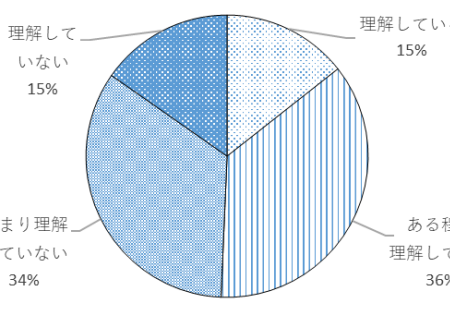
## 生徒からの期待度は7割

11月19日(月)に6階和室にて、新聞委員会主催で新生徒会役員5名に今後の生徒会活動について話し合ってもらった。また、生徒に生徒会に関するアンケートを実施した。

現在の生徒会が行おうとしている仕事に対する期待度



校内での携帯電話持ち込み認可やリュックサック製作については除く  
生徒会の仕事内容の理解度



新聞委員会による生徒会についてのアンケート結果(1, 2年生869名回収)

### ゴミ問題と対処

会長の松本千冬くん(2J)は話し合いの冒頭で「まずゴミ問題を解決し、そこから食堂マナーなどの解決につなげていきたい」と、現状について「自分のクラスを見ていない」とまだ分別が出来ていないと、立会演説会であればいいと、とても未だ変わっていない人もいました。正直がっかりと、いった感じでした。今の気持ちを生徒会としてはゴミ問題を解決するための具体的な対策として、まずは分別が出来ていない現状を可視化したいという。錦城祭実行委員長の森彩葉さん(1M)は「自治体によってゴミの分別のルールが違うから、間違えるという側面もあるのでは」と指摘。例えば汚れたプラスチックの処分は可燃ごみで処分する自治体と、不燃ごみで処理する自治体、洗って出す自治体で分か

れる。もっとわかりやすいように分別の方法を明記すれば違反も減るのではないかと提案した。松本くんは「ゴミ分別は興味を持ってもらわないと何とできないので生徒に協力してほしいですね」と訴えた。また、ゴミ問題の他「自動販売機の問題も目標に据えていきたい」と語気を強めた。

### 生徒会を知ってもらうため

食堂や登下校のマナーなど、これまで生徒会は多くの問題を提示し続けてきた。しかし解決が出来ていない現状には、生徒会の発信力が低いという問題がある。生徒会報や掲示板などの認知度はまだ低い。現生徒会は生徒会の掲示板の移動も考えているが、スペースの関係上実現は難しいそう。監査委員長の勝木直人くん(2D)は「5人で1500人を変えるのはとても難しい」と現状を話した。

話し合いの最後に、ゴミ問題を始める生徒が抱える問題の具体的な解決策を聞いたところ、いまのところ確定はしていないと松本くんは苦い顔をした。

現生徒会がどこまで改善できるのかを注視するとともに、錦城生一人ひとりの自覚を行うことが必要だ。

生徒は生徒会をどう思う？  
生徒会の話し合い後、活動がどのくらい理解されているか調査した。11月22日(木)に1・2年生に向けてアンケートを行い、生徒869人の回答を得た。

まず「校内での携帯電話の持ち込み認可への活動や、リュックサック製作を除いた生徒会の諸活動に対して自分どの程度理解していますか」という質問(トップ表左)に対して

## 自分の服装をもう一度見直して

11月9日(金)、16日(金)に正門前から昇降口の間で先生達による校門指導が行われた。突然のことに驚いた生徒も多いだろう。生徒指導部の栗林健一郎先生は今回の校門指導にいくつかのきっかけを挙げたが、その一つに制服の併用期間が終わったにもかかわらず服装の規則を守っていない生徒がいることを話す。他にも生徒から挨拶が返ってこないといった話も先生の間で挙がり、1度教員みんなで生徒の様子を確認しようということになったそう。

スカートが短い
ブレザーを着用していない
靴下が下がっている
化粧をしている
(色つきリップ、眉毛を描くなど)

実際、服装などの違反者は全学年にまんべんなく見つかったという。(具体例は左図参照) 生徒会長の松本千冬くん(2J)はシャツが出てくる人などをよく見かけると話す。「ブレザーを着て登校することはちよっとの意識で直ることなので、しっかり正しましょう」と全校生徒に注意喚起をした。(藪・權)

## 錦城高校新聞「都最優秀賞受賞」

### 他校の生徒と学ぶカメラの極意

11月17日(土)、三輪田学園に都内から新聞部・委員会が集まり、東京都高等学校新聞部連合会主催の「東京都最優秀賞」の授賞式が行われた。錦城高校新聞部は「東京都最優秀賞」を受賞し、来年度の佐賀新聞祭への参加が決まった。

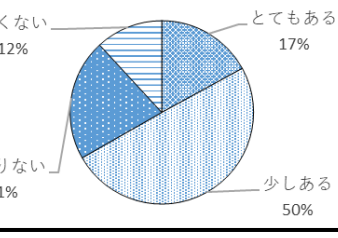


他校の生徒と協力してテーマに沿った写真を撮る

開をくわっていき「これです」と目標を口にした。講習後には、第34回東京都高等学校新聞コンクール表彰式が行われた。錦城高校新聞部は「東京都最優秀賞」を受賞し、来年度の佐賀新聞祭への参加が決まった。

総文祭への参加が決まった。委員長の石橋太郎くん(2D)は「これからもより高い水準の新聞の制作に努め、錦城の『今』を届けます」と意気込んだ。(終・杏・巴)

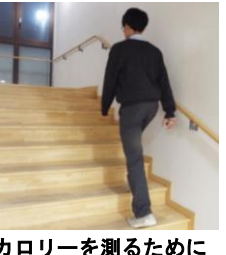
### 「ごみ分別問題」への関心



ある「完璧なゴミ分別」を達成するために、この数値を100%に近づけることが求められる。それぞれの問題の解決に向け、生徒会は発信力を上げなければならない。一方「現生徒会が行おうとしている仕事に対してどのくらい期待していますか」という質問(トップ表右)については「とてもある」「少しある」と答えた人が64パーセントと答えている。携帯電話の認可

## 階段とエレベーター消費カロリーの差は

皆さんは教室移動や登下校などそれぞれの行動にどのくらい、エレベーターを使用しているのか。階段とエレベーターの消費カロリーの差はどれくらいあるのか。エレベーターの方が健康・栄養研究所が改訂版「身体活動のメッツ(METS)表」(表2)を参考に、1階から6階までの移動に必要となる消費カロリーの差を比較した。消費カロリーの差は約1.4キロカロリーとほとんど同値となる。



カロリーを測るために階段を上がる編集委員

## フットサル部から代表選出

12月7日(金)ソウル郊外で行われるフットサルの韓国親善試合にフットサル部の秦野智広くん(2L)が出場することになった。中学のときは「フットサル」が好きで、高校でもフットサルをやってきた秦野くん。今年度の選考で、彼が選ばれたのは、選考会で行ったフットサルの試合で、他の選手と比べて、ボールにうまく触れることができたからだ。秦野くんは「フットサルは、仲間を巻き込んで楽しむことが好きです。フットサルを通じて、仲間と協力して、チームを強くしたいです。」と語った。(終)

## たくさんの試合に出たいと

秦野くんはフットサルが好きで、高校でもフットサルをやってきた。今年度の選考で、彼が選ばれたのは、選考会で行ったフットサルの試合で、他の選手と比べて、ボールにうまく触れることができたからだ。秦野くんは「フットサルは、仲間を巻き込んで楽しむことが好きです。フットサルを通じて、仲間と協力して、チームを強くしたいです。」と語った。(終)

## むらさき草

「桃栗三年柿八年」ということわざが日本には存在する▼100円ショップで白色のスイトピーの種に興味を持ち、衝動買いをしたことがある。早速自分の庭に植えた。最初は、小さな花が咲いて、徐々に花が成長していき、今では、大きな花が咲いている。また、お金の力を浪費しているのに、すきなわけではないか、と、この花は咲くかどうかは分からないし、まして咲いたとしても長くはもたない。あまり意味のない花に、どうにも魅力を見つけれない日々が続いた▼そんなある日、ついに花が咲いた。その花々の前で「今までこの綺麗な花を見るために頑張ってきたんだ」とようやく気が付かされる。手間ひまかけた分だけ綺麗な花が咲いたと思うと、今まで感じたことのないような小さな達成感と優越感に浸ることができた▼「価値のある良いことは時間も手間もかかるもの」と「思ふ」とおりに進めばいいのよ」。これは2008年に亡くなったアメリカ人女性園芸家、ターシャ・テューダーの言葉である▼彼女は晩年、30万坪という広大な土地で家族とともに自給自足の生活を過ごした。その生き様は2017年に日本映画化され、この映画を鑑賞した谷川俊太郎は「天国とは、こういうところかと思ひました」という言葉を残している▼一夜漬けた宿題を提出し、そのクオリティの低さに驚嘆した経験がある。その時はいくつと時間をかけて作り上げればよいか、何が出来るかと何度も反省した▼勉強や部活などもよく頑張っているけれど、いつか自分にとって何か価値のあるものになるだろう。スイトピーの花言葉は「ほのかな喜び」。私も自分で努力して、いろいろな分野で才能を開花し喜びを感じたい。(李)

# カレイ 彼は華麗な淡水魚!?

紹介するペットは、53回生Yくんの飼っている淡水カレイ。魚ということもあり、名前は付けていないそうです。Yくんがカレイに出会ったのは半年前のこと。ペットショップに行ったYくんがカレイを目にし「淡水にもカレイがいるのか!」と驚き、すぐに購入したといいます。Yくんはカレイを買った時について「カレイは体長が大きいイメージがあるけど、僕が見たのは体長3センチメートルくらいの小さいサイズでした。とてもかわいくて、すぐに買ってしまいましたね」と笑顔で語ってくれました。

Yくんがこれまでのカレイとの生活の中で一番驚いた瞬間は、水槽の前でカレイを観察していた時に水面から飛び跳ね、床に落ちてしまった時だといいます。Yくんは「カレイを拾って水槽に戻してから30分も水槽の前で心配していました」と当時のことを苦笑いで振り返りました。最後にYくんは「淡水カレイなど珍しい動物を飼いたいと思う人は多いですが、飼い方を調べてから飼うようにしてほしい」と話しました。

水槽の壁にぴったり

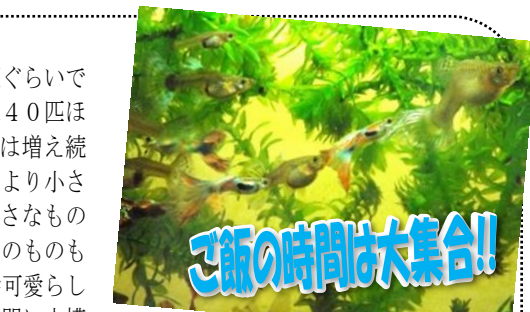
(2017・235号)

# 水中で暮らす小さな家族の一員

紹介するのは53回生のTくんのグッピーです。3年前の6月、小学生の妹がクラスで飼育していたものを担任の先生から分けてもらい、家族皆でお世話することになりました。最初は8匹ぐらいでしたがどんどん生まれ、今では40匹ほどに増えました。今もその数は増え続け、それほど大きくない水槽がより小さく見えます。生まれたての小さなものや、ちょっと太りすぎの大きめのものもいて、とても可愛いです。一番可愛らしいと感じるのは、エサやりの時間に水槽の前を通っただけで「ご飯だ!」と察知してみんな寄ってくるのを見るときです。特に掃除をするのはTくんのお母さん。「水槽の藻を落とすのが大変だけれど、小さな家族の一員達のため」と思って奮闘しているそう。(2015・171号)

# 歴代ペットから編集委員厳選!! 個性あふれるペット特集

次回で45回を数える連載企画「ペットの部屋」。この企画では錦城生や生物部、クラスなどで飼っている珍しい動物や愛されている動物が登場した。今回は過去のペットたちの中から編集委員が特に個性的と感じた動物をピックアップし紹介する。※記事は当時のものを再編集しています。(編集部共同取材)



ご飯の時間は大集合!!



餌をむしゃむしゃ

紹介するのは生物部で飼っている11月に生まれたパンダマウスの赤ちゃんの1匹(いち)とチョコ。12月に生まれた2匹の赤ちゃんです。もう2匹生まれていましたが、親が子食いをしてしまい2匹とも亡くなってしまいました。

パンダマウスの子育てに密着  
パンダマウスとはハツカネズミの一種です。中国で白黒の個体を、パンダ柄で固定するように改良されたもので、普通のマウスよりさらに小型化されています。4匹赤ちゃんは文化祭前ごろに来たパンダマウスの佐疫(さえき・メス)と斬島(きりしま・オス)の間に生まれた子供でした。赤ちゃんが生まれたところを見て、部員は「無事産まれてきてくれてよかった」という気持ちでいっぱいだったといっています。赤ちゃんの面倒見がいいのはお父さんの斬島だそうで、赤ちゃんの小屋づくりを頑張っているといっています。逆に母親の佐疫はお父さん任せになっているそうです。赤ちゃんは最初母乳を飲み、目が開き、動き出したら親と同じ固形の餌を食べます。赤ちゃんの世話をするうえで大変なことは、うかつに手を触れないことだそうです。理由は人の匂いが赤ちゃんの体に付いてしまうと親が育児放棄をしてしまう場合があるからだといっています。

(2016・190号)

# やんちゃ盛りのモモンガ兄弟

紹介するペットは生物部で飼っているモモンガです。オスとメスのペアで飼っておりオスがスモモ、メスはコモモという名前です。モモンガは元々生物部で飼いたい生き物の1つに挙がっていたといっています。コモモの方がスモモより色が薄く、スモモは少し凶暴なところが特徴です。大きな黒目が可愛いモモンガは生物部でも人気です。触れ合っている時にポケットに入りそのまま寝る姿は部員を虜にします。しかし可愛い外見からは想像もできない叫び声のような声で鳴くので衝撃を受けたそうです。しかし触れ合っていくうちにモモンガが人馴れて、飼っていて楽しいそうです。「これからも時間があるときにモモンガを触り馴れさせていきたいです」と笑顔で話しました。



(2016・207号)

# 46匹の小さな宝石たち



優雅にスイスイ

紹介するペットは56回生のMくんの金魚です。初めて金魚を飼い始めたのは、6年前。そして、3年前に水槽を買ったのをきっかけとして本格的に飼い始めたそうです環境の変化ですぐに駄目になることもあり大変ですが、奥が深くやみつきになりやすいと言っていました。

飼っている金魚の中で一番多い品種は、「東錦」だそうです。三色出目金の系統で藍色をベースに赤と黒が入り混じった雑色で、一部の愛好家に人気な品種です。個性が強いのですが、ひれが長いところなどが好きだと話していました。次に多い品種は、「水泡眼」。ランチュウ型の金魚で、眼球の角膜のみが大きく膨らんだ水泡と呼ばれている部分が特徴的です。最初の水泡は小さいのですが、成長していくにつれて大きくなっていくことに喜びを感じるそうです。現在は46匹ですが、もっと魚を飼っていきたいと語っていました。(2018・258号)



大きな瞳がキュート

# ペットの部屋で紹介してほしいペットがある人はぜひ新聞委員へ!!

2年生のHR委員が安比スキー修学旅行に向けて話し合いを行っている。その中の1つが、インスタクターの方に感謝の品として贈るタンブラー。先日、そのデザインがHR委員の投票によって決定した。タンブラー係班長の土屋和子さん(2F)は「Thank you」と感謝の言葉が入っているところがいい、と魅力を語る。「カラーでは、イラストの灰色の部分に銀色になっていてキラキラしています」と絶賛した。



お世話になる方への感謝の気持ちを込めたデザイン

タンブラーに感謝の気持ちを込めて  
手作りとは思えない、お店で売っているようなクオリティになるというタンブラーの完成に期待だ。今回選ばれたデザインを描いたのは村田美佳さん(2F)。美術部で部長をやっていることがきっかけで友達に声をかけてくれ、イラストを応募したという。もともとデザインをすることが好きだったそうで、錦城祭の門飾デザインも担当した村田さん。「タンブラーのデザインは時間の無い中で描いてしまい、選ばれると思っていなかったのが嬉しです」と笑顔で語った。白銀の世界をイメージし、雪景色は銀、水色、黒の3色に絞って描くことで、色を多用しないように工夫したそう。下地が白だったので雪の色はあえて銀色にしました」と話した。コンパス等を使って精巧に描かれた雪の結晶にも注目だ。(種)

# 錦城生へ「挨拶は常識」



警備員さんだけでなく、校内では挨拶を心がけよう

「挨拶は常識ですよ」と苦笑い。また最近気になることとして、草津さんは教科書や単語帳を読みながら歩く錦城生がいることを挙げた。ぶつかりそうになったと歩行者や自転車に乗っている方からの苦情もしばしば警備員に入るといふ。草津さんは「近くの人のトラブルを防ぐためにも、周りを見て行動してほしいです」と警備員を助けた。

去年取材に当たってくれた草津誠一郎さんは、最近の錦城生の挨拶状況について、先生からの呼びかけにより挨拶する人は増えたと話す。一方で挨拶を全くしない生徒がいることも事実だそうである。

# 温かい雰囲気洋菓子屋へ



しつこくない甘さが魅力のパイ

今回のこいだら食い倒れは、一橋学園駅から徒歩で約7分の所にある「洋菓子サントノール」に行ってきました~! 地域の人に愛されているケーキ屋さんです。出迎えてくれたのは店主の山崎博司さん。小平ブランド認定品は「上水の散歩」という商品です。小平産ブルーベリーで作ったジャムに白あんを混ぜ、パイ生地であまじゅりりと焼き上げた一品。

商品名の由来は、お店の近くに玉川上水が流れており、パイの表面の模様が川に似ているからと教えてくれました。当初ジャムだけをパイで包むと中身が流れ出てしまったため、試行錯誤の上ジャムの3分の1の分量だけ白あんを混ぜることにしたそうです。「パイがぱりっとなっているうちに食べてほしいです。今の時期だと乾燥しているので、サクサク感が長持ちします」と山崎さん。口に入れると...白あんの主張が強すぎず、ブルーベリーの風味が感じられます。すっきりとした甘さで紅茶との相性も抜群!サクサクのパイ生地とうまく合わさり1個で満足感を得られる一品でした。その他にもタルトやロールケーキなどブルーベリーを使った商品がたくさんありました。ケーキの種類も豊富で値段も300円程度とお手頃なのでオススメです! 優しい笑顔の店主が迎えてくれる「洋菓子サントノール」にぜひ足を運んでみてください。(泰)

# 大会報告

# 生徒会動静

柔道部  
▽新人大会  
1回戦敗退  
古賀亮作(2C)、白石真太(2L)、藤沢廣人(1L)  
フットサル部  
11月23日(金)  
▽第1回女子高体  
フットサル大会  
6位 Z班 9位 A班  
11月22日(木)  
合唱祭実行委員会  
随時活動中  
中央委員会